

報告文献別一覧表(平成17年9月1日～平成17年12月31日)

No.	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された(2004年事例)。このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
2	A型肝炎	Transfusion.2005;45(7):1097-1105	市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。
3	B型肝炎	AABB Weekly Report 2005;11(26):4-5	米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性又は中和試験で確認されないが繰り返し陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーが最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBVDNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。
4	B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。
5	B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
6	B型肝炎	Transfusion.2005;45	プール血漿に対してのNAT検査の有用性について。FDAが実施した欧米のHBV-NATの多施設試験の結果、HBsAg検査法等と比較してそれほど優れた方法ではなく、費用対策効果もわずかであり、NATの実施は現時点ではミニプール及び個別ドナーに対して任意に実施されるべきである。現行のスクリーニングに本方法を追加することの利点は限られている」との見解を示した。
7	B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について。
8	B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会2005年9月17-19日	HBsAg陰性でHBsAb陽性患者が同種造血幹細胞移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した報告。免疫状態の変動によってウイルスの再活化が考えられる。
9	B型肝炎	第53回日本輸血学会総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
10	C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
11	C型肝炎	J of Clinical Microbiology 2005;43(9):4413-7	日本において、HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNA定量で唾液検体が陰性であってもGCFではHCV-RNAが認められたという報告。HCVの感染経路を考察する必要がある。

No.	感染症(PT)	出典	概要
12	C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。
13	C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。
14	C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005 年10月6-9日	2003年3月～4月にかけてベインクニックで汚染されたバイアルの使い回しによるHCV感染拡大の報告。
15	C型肝炎	The Lancet Infect Diseases 2005;5:558-67	WHO調査によるC型肝炎発症の国別の調査結果。米国は1994年までの罹患率1.8%であり、途上国と比較して少ないが、感染経路は輸血が一番多い。発展途上国は安全な血液供給、先進国で安全な注射の実施および薬物使用者を減らすことに主眼が置かれるべきである。
16	C型肝炎	Transfusion.2005;45(6):994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロコンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。
17	C型肝炎	Transfusion.2005;45:807-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
18	C型肝炎	共同通信 2005年5月30日	HCVの混入した血液が日赤のNAT検査をすり抜けて出荷されていた。1999年の高感度検査導入以来、HCVのすり抜けは2例目。
19	E型肝炎	CDR Weekly 2005;15(30)	2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血によるE型肝炎であると確定された。
20	E型肝炎	Hepato Research 2005;31:178-83	野生のイノシシ肉を食した1例のE型肝炎の報告事例。
21	E型肝炎	J of Virology 2003;84:2351-7	北海道で2001年-03年に散発的に発生した、急性ないし劇症E型肝炎の感染症例10例のうち9例について調理された豚レバーを食べていた。検出されたウイルスのあるものは、感染患者から分離されたウイルスの塩基配列との同一性が認められた。
22	E型肝炎	第41回日本肝臓学会 総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。
23	E型肝炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S):922	北海道における急性E型肝炎患者を対象とし、E型肝炎ウイルス感染及び重症化の危険因子を検討した結果。
24	HIV	CDR Weekly 2005;15(21)	2005年の1月～3月に新規HIV感染診断2230件が報告された。1982年にサーベランスが開始されて以来英国で報告されているHIV診断総数は70783件になった。現在までに21280例がAIDSと診断され、そのうち13145例が死亡。2004年に報告されたHIV診断6403件のうち輸血および血液因子製剤を介しての可能性のある診断数は男性7例女性8例。

No.	感染症(PT)	出典	概要
25	HIV	Clin Med J 2005;118(9):720-4	中国のあるコミュニティで1990年代半ばに行われた血液収集活動によってHIV感染が現在母子感染を起こしている。2000年～01年の調査では、子供224人中5%が陽性で、抗体陽転率は2.5%/年であった。
26	HIV	Infection Diseases Weekly Report Japan2005年第16週	今期間(H17年1月3日～4月3日)における法定報告に基づき新規のHIV感染者報告数は207件で前年同時期の新規報告件数(150件)より増加している。
27	HIV感染、C型 肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイドライン案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
28	HTLV	Transfusion.2005;45:1 151-9	amotosalenを用いた新たな光化学処理(PCT)により、ヒト血漿または濃厚血小板のHTLV-1およびHTLV-2が不活化されたフランスのデータ。今後の血小板や血漿の輸血における安全性を高める可能性を与えるものかもしれない。
29	ウイルス感染	PNAS 2005;102(36):12891-6	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirnsと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
30	ウイルス感染	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒト-ヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。
31	ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1 084-8	SENウイルスはエンベロープを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
32	ウイルス感染	日本周産期・新生児 医学会雑誌2005; 41: 54-8	エコーウイルス2型によりウイルス関連血球貧食症候群が発症し死亡した事例。
33	ウエストナ イルウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の薄片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒトへの応用が期待される。
34	ウエストナ イルウイルス	CDC Available form	2005年8月-9月のニューヨーク、ペンシルバニアでのWNV感染に関連するQA。
35	ウエストナ イルウイルス	CDC/EID,11(8) 1294- 1296,2005	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。
36	ウエストナ イルウイルス	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-3	2005年9月、CDCによると、米国で共通のドナーから臓器移植を受けた4名中3名がWNVに感染したと報告。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体およびIgG抗体は陽性を示したがWNV-RNAは陰性であった。
37	ウエストナ イルウイルス	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9	2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。

No.	感染症(PT)	出典	概要
38	ウエストナイルウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2156-60	1997年の洪水の後、チェコ共和国のLanzhotから10kmの範囲で採集された雌のCulex pipiens (アカイエカ)をホモジネートしたものを混ぜて授乳したマウスの頭蓋内からWNVと深く関係があり、且つ今までに類のないワビビルス株(97-103)の抗原性や、マウスの特異的毒性のみならず、完璧なゲノム配列と系統的分析について判明した結果について。
39	ウエストナイルウイルス	Emerging Infectious Diseases 2005;11(8):1294-6	2004年米国で、WNV性脳炎発症8日後の65歳患者から採取した尿検体からWNV-RNAが検出された。しかし、その後の尿検体からは検出されなかった。血液中の中和抗体が尿へのWNV排泄を阻害しているのかもしれない。今後WNV感染患者の尿検体検査時期を検討する必要があるかもしれない。
40	ウエストナイルウイルス	J of Heart and Lung Transplantation 2005;24(6):774-6	心臓移植を受けた直後にWNV脳炎を発症した患者の報告。著しい免疫抑制状態の患者が移植あるいは、輸血を受ける際にはWNVが伝播する可能性のあることを認識すべきである。
41	ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
42	ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによって「ロスベクティブ」に調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
43	ウエストナイルウイルス	Transfusion.2005;45(4):480-86	2002年、米国でウエストナイルウイルスが流行、輸血によって感染した初の症例が報告された。血液センターと共同で1468本の冷凍血漿をウエストナイル熱の多発地域から選択的に回収し酵素免疫測定、核酸増幅試験により調査した。結果、輸血によるWNVの感染の可能性が示唆された。
44	ウエストナイルウイルス	厚生労働省 報道発表資料(2005年10月3日)	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のWNVと診断されたと発表。
45	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	水疱性口内炎、ウマ&ウシー米国 情報源：米国農務省新聞発表。 2005年10月4日、ニューヨーク州Plum Islandの外来性動物疾患診断研究所は、ネブラスカ州Scotts Bluff郡にある施設で飼育されていたウシ3頭で、初の水疱性口炎New Jersey 株(VS-NJ)感染症例を確認した。VS-NJウイルスは、発病した成牛3頭からの検体から分離された。これらの個体は、2005年ネブラスカ州で最初の水疱性口炎症例である。
46	エボラ出血	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	出血熱ー中国(内モンゴル自治区) 情報源：新華社通信Xinhua News Agency上のNorthern New Times記事、6月28日。 内モンゴル自治区保健局は2005年6月27日、今年自治区全域にわたる感染性出血熱発生率に関する状況を報告した。2005年1月1日から6月3日の間に内モンゴル自治区全域で総計187名の出血熱患者が報告されている。昨年同じ時期に比較して発生率は192.18%増加した。2名の死亡患者があり、2004年同じ時期(1名死亡)より100%増加している。
47	狂犬病ウイルス	ProMed20050709-0070(News Agency Regunum 7月7日)	ロシアAstrakhan地域で、飼育ハムスターから狂犬病ウイルスが検出された。2005年1月から5月までに4名死亡している。
48	狂犬病ウイルス	The New England J of Medicine 2005;352(11):1103	臓器ドナーから移植レシピエント4例への狂犬病ウイルスの感染の報告。4名とも原因不明の脳症で死亡した。

No.	感染症(PT)	出典	概要
49	結核	ProMed20050717-0010(Saukvalliy com7月15日)	米国 ミネソタ州におけるウシ結核の報告。州当局は900頭のウシを処分する見込みと発表。1971年以来のウシ結核発生。
50	コロナウイルス感染	European Respiratory Journal 2005;25(1):12-14	中国において、SARS-CoVのRT-PCRの陽性反応がウイルス学的にSARSと確定された45名の患者について。RT-PCR検出で陰性になるまで平均13日であった。陰性となるまで個人環境の管理が重要となる。
51	コロナウイルス感染	J of Medical Virology 2005;75:455-62	オーストラリアでの重症呼吸器感染症の原因がコロナウイルスHCおV-NL63to関連があるかもしれない。
52	コロナウイルス感染	Biologicals 2005;33:95-9	SARSコロナウイルスについて免疫グロブリン製剤でのS/D処理によるウイルス不活化能力の評価に関するドイツの報告。S/D処理により、処理後1分で検出限界以下まで不活化されることが示された。
53	コロナウイルス感染	Emerging Infectious Diseases 2005;11(3):446-8	2003年中国でSARSの流行があった地域において、ヒトと接触の機会のある6種類の家畜242頭からPCR法による検査をした結果、ブタ2頭のみが陽性となり、うち1頭がウイルスも分離できた。分離されたウイルス株と既に中国本土から分離されている株とを比較したところ一部ヌクレオチド置換等からヒトを起源としたものである可能性が示唆された。SARS-CoVのヒト-ブタ伝播の可能性が考えられる。
54	口蹄疫	OIEホームページ (http://www.fao.oie/eims/upload/191450/fmd_china_empres.pdf)	中国で発生したアジア1型口蹄疫感染が拡大し、近隣国への拡大が懸念されている。
55	サルモネラ	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2225-7	2001年、オランダの農場にて、異型の鼠子フス菌(DT104A変異株)の、非経口の動物-動物間及び動物-ヒト間の接触感染が示唆された。
56	サルモネラ	Emerging Infectious Diseases 2005;11(6):859-67	世界29カ国における多剤耐性SalmonellaTyphimurium感染の発生率、また多剤耐性を決定するファジータイプ104(DT104)の増加について調査したところ過去20年間で実質的に多くの国で増加傾向にあった。1991年～2001年の期間で抗生物質耐性またはファジータイプの調査を行った結果、キノロン耐性S. Typhimuriumの発生が増加していた。
57	サルモネラ	J of Protection 2005;68(2):273-6	2001年夏、ドイツでサルモネラ属ミュンヘン感染が発生した。原因としてブタ肉が疑われた。ブタ肉の汚染が一連の生産工程の初期に起こったことが遡及調査からわかった。
58	細菌感染	The Lancet 2005;365(9470):1596	S字結腸癌に合併するStreptococcus bovis菌血症が供血時の細菌培養検査で発見され、良好な臨床転帰を得た事例。
59	細菌性胃腸炎	第59回日本細菌学会東北支部総会2005年8月25,26日	屠畜場に搬入されたウシにおける腸管出血性大腸菌(O157)およびO26の保有状況の全国的調査結果の抄録2004年7月～2005年2月の期間で全国的にウシのO157保有率が高く、前年全国調査に比べ上昇傾向であった。
60	人畜共通感染症	Emerging Infectious Diseases 2005;11(7):1028-35	アジア初めてのSimian foamy virus(サル泡沫状ウイルス)の霊長類からヒトへの感染伝播の報告。(2000年7月調査)

No.	感染症(PT)	出典	概要
61	人畜共通感染症	J Clinical Microbiology 2005;43(3):1142-8	デンマークの回虫症患者について、AFLP法および核rDNAの内部転写スペーサー(ITS)領域のPCR-RFLP法によって、ヒトからの回虫とブタからの回虫を比較した。結果、ヒトの回虫感染は家畜ブタからの回虫感染であった。よって、回虫症はデンマークにおいては人獣共通感染症として考慮しなければならない。
62	人畜共通感染症	J of Infection 2005;51:91-7	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人のデング熱のような患者からタニ媒介性キャサナル森林熱に非常に類似した新種のウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などをともなう。致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱となるかもしれない。
63	水疱性口内炎	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
64	デング熱	CDC/MMWR Weekly 2005;54(22):556-8	米国居住者で熱帯、亜熱帯地方を旅行した後、2001年～04年で臨床症状及び発症時期からみてデング熱疑いの366名の報告。
65	デング熱	ProMed20050624-0030(News gov hk,Hong Kong)	中国保健センターは8例のデング熱輸入患者を確認した。患者と触した者には病気の兆候はない。
66	デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。
67	電撃性紫斑病	Clinical Infectious Diseases 2005;40:941-7	2000年～04年、スーパー抗原毒性ショック症候群毒素-1(TSST-1)、レンサ球菌性エンテロキシン血清型B(SEB)もしくはレンサ球菌性エンテロキシン血清型C(SEC)を高レベルで生産する黄色ブドウ球菌が直接関連する電撃性紫斑病の初めての5症例について。
68	トリインフルエンザ	OIEホームページ (http://www.oie.int/eng/info/hebdo/AIS_64.HTM#Sec2 .)	2005年6月27日に日本で低病原性鳥インフルエンザ(H5N2)が流行した報告。
69	トリインフルエンザ	Nature 2005;435:390-1	政府の検査によって感染の存在が確認されたので高病原性のトリインフルエンザウイルスがインドネシアの豚に感染しているという懸念が増大している。ある地域ではH5N1型ウイルスが無症候状態でブタ集団の半分以上に感染している。ブタがヒトでの汎流行インフルエンザウイルス株の変異を促す攪拌槽の役割をもつのではないかと危惧する研究者もいる。
70	トリインフルエンザ	The New England J of Medicine 2005;352:1839-42	世界規模でのインフルエンザ流行への警告。最悪のシナリオ回避のための方策などについて。
71	トリインフルエンザ	ProMed20050415-0060(New Scientist com news service,14 April 2005)	2005年4月、AirLangga大学でインドネシアのブタから鳥インフルエンザを同定。ブタはヒトのインフルエンザも鳥のインフルエンザにも感染するため、ブタがヒトでの汎流行インフルエンザ株への変異を危惧する報告。

No.	感染症(PT)	出典	概要
72	トリインフルエンザ	CDC HomePage 2005年11月7日	WHO鳥インフルエンザH5N1型の更新情報。2003年～05年のアジア、ヨーロッパでH5N1型鳥インフルエンザの動物、ヒトにおける進展状況。
73	トリインフルエンザ	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2189-91	インフルエンザA(H5N1)ウイルスが大流行中の2003年12月、タイの動物園でトラ、ヒョウが高熱と呼吸器の症状で死亡した。これはH5N1型の宿主域が拡大され、ネコ科動物に対して強い病原性を持つようになったことを示唆するかもしれない。
74	トリインフルエンザ	Emerging Infectious Diseases 2005;11(11):699-701	2004年10月、タイでの2度目の鳥インフルエンザ(H5N1)の大流行。生のニワトリの死体の餌を中止した後も発病が確認されたことになる。トラートラ間の水平伝播による感染が疑われる。
75	トリインフルエンザ	FAO news Apr 25 2005	2005年3月15日、北朝鮮においてトリインフルエンザ流行のため、数千羽のニワトリが死亡したと報道された。その後、4月に国連食料農業機構は北朝鮮で流行したトリインフルエンザは制圧されたと発表し、本流行のウイルスはH7型株によるものでニワトリに対しては重篤な疾患を引き起こすが、アジアの他の地域で流行しているH5N1型株との直接的な関係はないことを示した。
76	トリインフルエンザ	J of Infectious Disease 2005;192:1318-22	低病原性鳥インフルエンザ(H7N3)がトリからヒトへ感染する可能性があることを示唆する報告。1999～2003年にイタリア北部の延べ6地域で起きた家禽のインフルエンザ(H7N1)とLPAI H7N3の流行中又は後に飼育所の作業員983名の血液中の抗体を調査した結果、2001年までは抗体は見つからなかったが2002年～03年には185名中7名(約4%)に抗体が見られた。
77	トリインフルエンザ	Nature 2005;436(7048):191-2	H5N1型トリインフルエンザウイルスは汚染された養鶏場を飛行する野鳥の死骸から時々分離されるが、これは家禽からウイルスに感染した可能性が考えられていた。しかしながら、2005年4月30日、中国西部で周囲に養鶏場のない自然保護地区でインドガンでの発生が確認された。臨床所見全て水禽のH5N1感染所見として知られているものであった。5月4日には1日に100羽以上が5月20日には1500羽が死亡。分離されたウイルスと中国各地のH5N1ウイルスを解析したところ、このウイルスは2005年南部の養鶏場で分離された。
78	トリインフルエンザ	OIE DISEASE INFORMATION 27 MAY 2005 VOL 18-21	2005年5月23日、農業畜産局局長によるインドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルス感染の経緯について。最初の調査は2005年2月23日、Baten州で187検体について調査。2回目は4月14日、3回目は4月26日。
79	トリインフルエンザ	OIE Disease INFORMATION, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	2005年6月、動物衛生研究所は、茨城県で国内初のトリインフルエンザH5N2型を同定した。発生源又は感染源は特定されていないが、野鳥との接触による可能性が疑われる。
80	トリインフルエンザ	OIEホームページ (http://www.oie/eng/info/hebdo/AIS_59.HTM#Sec2)	インドネシア等東アジア地域でトリインフルエンザH5N1型の感染が蔓延しており、ブタへの感染が認められ、さらにヒトへの感染も生じ、死者まで出ている。
81	トリインフルエンザ	ProMed20050415-0060	2005年4月、熱帯病対策センターによると、インドネシアの豚から鳥インフルエンザウイルスH5N1型が検出された。米国の研究者による予備的な研究結果から、ブタ同士ではH5N1ウイルスの感染伝播しないことが示唆された。
82	トリインフルエンザ	ProMed20050514-0060	2005年4月からのインドネシアにおけるブタの鳥インフルエンザウイルス感染について、中国の科学者らは、動物が本当に感染したのか単に皮膚や鼻腔にウイルスの痕跡が残っただけなのか懐疑的を述べている。

No.	感染症(PT)	出典	概要
83	トリインフルエンザ	ProMed20050515-060	2005年5月、食料農業機構(FAO)の鳥インフルエンザ疾患緊急情報によると、2005年4月のインドネシアの豚の鳥インフルエンザウイルス感染につづき北朝鮮では、H7型による感染が拡大しつつあると報告。
84	トリインフルエンザ	ProMed20050725-0020(Reuters alertnet 7月24日)	2005年7月25日、インドネシア当局は同国初の鳥インフルエンザ犠牲者となった同一家族の3名が居住する町に近い村の鳥インフルエンザに感染したブタを処分した。
85	トリインフルエンザ	The Jakarta Post Jul 26 2005	インドネシア政府は、ジャカルタ郊外でH5N1型鳥インフルエンザにより死亡した家族は鳥の糞に含まれる鳥インフルエンザウイルスによって感染した可能性があると発表。
86	トリインフルエンザ	Virus research 2005;109:181-190	デンマークにおいてまがもからインフルエンザウイルス亜種としてH5N7が確認された。ヒトへの感染は確認されていない。
87	トリインフルエンザ	WHO inter-country Consultation Influenza A/H5N1 in Humans in Asia Manila May 6-7 2005	H5N1型鳥インフルエンザウイルスがヒトに対する感染性をより高めている可能性が示唆される報告。2005年1月～4月にベトナム北部でH5N1型感染が発生した。しかし、本ウイルスは2004年にアジアの他の地域、及びベトナム南部で発生したものといくつかの点で相違があった。北部では南部と比べて、群発数の増加、群発内の最初と最後の症例間隔の延長、無症候性感染の発現、感染年齢層の拡大、及び死亡例の減少などがあった。
88	トリインフルエンザ	農林水産省 報道発表資料 H17年 6月26日	2005年6月26日、農林水産省は、弱毒タイプと考えられる高病原性トリインフルエンザ(H5N2亜型)が茨城県の養鶏場で確認されたと発表。その後、同県および埼玉県にある養鶏場でトリインフルエンザウイルスH5亜型に対する抗体陽性が確認されている。
89	トリインフルエンザ	農林水産省 報道発表資料 H17年 6月9日	2005年6月、米国ニューヨーク州のアヒル飼育農場における低病原性鳥インフルエンザ(H7N2型)の発生を受け、日本当局は同州からの家畜家畜肉等の輸入を2005年6月9日ついで一時停止した。当該輸入停止措置については、当該州における同病の清浄性が確認されるまでの間、継続する。
90	ニパウイルス	バングラディッシュ国際下痢疾患研究センターHP (ICDDR, B)2004年	2004年2月から4月にバングラディッシュでのニパウイルスのヒト-ヒト感染伝播についてバングラディッシュ国際下痢性疾患センター(ICDDR)からの報告。36名が感染確定、27名が死亡。患者に1回曝露しただけで死亡した例も2例ある。
91	日本脳炎	ProMED情報 (厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	日本脳炎-中国: 疑い 情報源: Gansu Daily / Xinhua, 6月28日。 中国北西部甘肅省の都市天水Tianshui市小児における最近の脳炎流行は、市感染制御予防センター長官Wang氏によれば、一種のウイルス性脳炎である[Moderator注: 検査室診断結果のない純粋な推測である]。2005年6月24日に開催された地方保健当局による記者会見で、Wang氏は3月4日から6月23日までに天水Tianshui市内2つの病院では、発熱と頭痛のため年令1才から13才の小児を収容したことを明らかにした。
92	日本脳炎	ProMED情報 (厚生労働省検疫所海外感染症情報/詳しい情報)	日本脳炎-中国: 疑い 情報源: South China Morning Postウェブサイト, 香港, 6月3日。 中国甘肅省と広西壮族自治区で2件のウイルス性脳炎流行が報告され、100名以上の小児が感染し、2名の死亡が報告された。この状況は全国規模での警報を発するほどには至らないが、中国全土が日本脳炎流行のピークの季節に当たるため、今回の流行により保健当局者は警戒を強めている。香港保健局広報官は2005年6月22日、流行調査を文書で要請したと述べた。 < http://news.monstersandcriti
93	パルボウイルス	CID 2005:41	パルボウイルスが急速には排出されにくいことを示唆するスウェーデンの報告。
94	パルボウイルス	Transfusion complications.2005;45;1003-10	S/D処理をした高純度のAHF製剤においてもB19は存在することを示唆する報告。

No.	感染症(PT)	出典	概要
95	パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6) 1003-10	ヒトパルボウイルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。
96	ペスト	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	ペストー中国(チベット自治区) ・情報源: XinhuaNet.com, 6月25日。 中国南西部チベット自治区Xigaze県Zhongba郡におけるペストは制圧されたと、チベット保健局報告を引用して中国保健省が報じた。この流行でこれまでに5名が感染したと現地保健省当局者が2005年6月25日述べた。患者は6月13日から18日にかけて発生しており、うち2名が死亡した。 < http://news.xinhuanet.com/english/2005-06/25/content_3136079.htm >
97	BSE	ABC newsletter 2005年2月11日	イギリス環境食料農村地域省(DEFRA)は2005年2月、1990年にスクレイパーにより死亡したスコットランドでのヤギは実はBSEに感染していた可能性があるとして発表。確定までに1~2年かかるが確定すれば2002年にフランスで死亡したヤギに続いて2例目のヤギBSE症例となる。
98	BSE	FDA News	米FDA, BSEに関する調査の結果を報告 米農務省(USDA)の動植物衛生検査部(APHIS)およびFDAは、2005年6月に牛海綿状脳症(BSE)に検査陽性となったウシに関する調査を完了した。本症例はテキサスの牧場で生まれ育ち、死亡当時は約12才で、1997年の飼料禁止令の実施以前に生まれていた。2004年11月に家畜販売業者を介して販売され、食品加工工場に輸送されたが、到着時に死亡しており、その後BSE検査が行われたペットフード工場に輸送され、使用されずに2004年11月に死骸が処分された。
99	BSE	The Veterinary Record 2005;157:206	フランスでのヤギのBSE確認が、小反芻動物が飼料を介した経時的な曝露によりBSEを維持するのかという議論をヨーロッパで活発化させている。実験的なヒツジの群れの間でのBSE汚染飼料摂取によるBSE垂直感染が確認された。
100	BSE	USDA 2005年4月	2005年5月米国農務省は、カナダにおけるBSE発生状況の総括について概要を発表した。現在発生している4例はアルバータ州での発生であり、97年にカナダ政府が発行した反芻動物由来飼料の使用禁止前又は直後に感染した様子。問題の可能性があるウシ859頭のうち29頭がカナダから米国に輸入された可能性があり、うち18頭が加齢または屠殺により死亡が確認されている。96年から97年に汚染されたウシ飼料がアルバータ州から米国に輸入された可能性があるが、これら飼料はアジア方面に輸出された鳥の飼料に使用されたいずれかであると
101	BSE	USDA News Release No.0232.05	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイブリッジ獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性とみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
102	BSE	USDA/050429	2005年4月、米国USDA及びAPHISチームはカナダにおいてBSE症例の疫学調査の徹底的な見直しを行い、共通の原因をしてBSE汚染飼料を消費したことによるかもしれないと報告。
103	BSE	ProMed20050629-0020(News24)	2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討されたときにはBSEと診断確定できなかった牛が2005年6月に英国のOIEのBSE委託研究所でウェスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。
104	BSE	USDA 2005年8月	2005年8月、米国農務省による米国における2例目のBSE例に関する調査報告。本調査では、このウシは反芻動物由来飼料の使用禁止措置前の数年前に産まれており感染ウシの産生牧場のウシで生存が確認されたのは2頭のみであり2頭ともBSEの可能性はないことが確認された。
105	BSE	USDA Statement 2005年6月29日	米国農務省によると、2005年6月第4週にBSE検査陽性と同定されたウシについてDNA検査を行い、このウシはテキサス州内で飼育され、年齢が12歳前後であったことが確認された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
106	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始した。
107	BSE	ProMed20050629-0020(OIEウェブサイト6月29日)	米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイツン獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。
108	BSE	USDA News Release No.0232.05 2005年6月24日	2005年6月24日米国農務省が、英国ウェイツンの獣医学研究所からBSE最終検査結果を入手し2004年11月に食用から排除された牛の検体の検査から陽性が確認されたことを発表した。また、BSE検査結果が「未確定」の場合に備えて、2重の確認試験を含む新たな検査法手続きを作成するよう指示した。
109	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Current Opinion in Biotechnology 2005;16:1-7	ウイルス、TSEに関する生物由来製品の安全性に関する総説。ノンエンベロープウイルスの分画での除去効率が低いことに伴う効果的不活化の研究開発課題。TSE病原体(プリオン)のより確実な除去方法の開発の課題と供血者のスクリーニングによる安全確保の重要性。
110	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 20 July 2005	2005年7月、英国当局はvCJDリスク低減予防措置を強化した。後にvCJD発症の3名に供血した約100名はvCJD伝播の可能性があるため、血液、臓器提供を行わず、手術時等には医師等に通知することが要求された。
111	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virological Methods 2005;127:154-64	病原性プリオンの検出方法について、現行のウエスタンブロット法やELISAの100万倍以上の感度を示す可能性のあるイム/PCR法(IPCR)の紹介。現時点では実用段階ではないが今後の標準化が望まれる。
112	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virological Methods 2005;125:187-93	二次抗体を使用しない直接ウエスタンブロット法によるプリオン検出法の開発。これにより、感度を維持しながら、非特異的バンドの出現を減少させることが可能であり、血漿製造工程における病原性プリオン除去能の評価に有用。
113	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	New York State Department of Health ホームページ	プリオン病の一種である、慢性磨耗病(CWD)について。2005年3月現在で北アメリカに限定され、野生シカおよびベラジカでのみ確認されている。現在ウシやヒトへの感染の報告はない。
114	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science.2005;310:324-6	慢性的な炎症がプリオンの分布を拡大しうるかもしれない報告。慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討したもの。
115	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2005;89:63-70	発症前段階でのvCJDの新規診断方法について。(CDI法/SIFT法/イム/PCR法)これらの検査法の今後の課題は、擬陽性を避けること(特異性)で、真の陽性を見落とすこと(感度)よりもはるかに重要であろう。
116	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Vet Diagn Invest 2005;17:276-81	脳内経路からのシカからウシへの異常プリオン蛋白の実験的伝播について。経口曝露の影響を調べるとなると、大量のシカ異常蛋白が必要であり、ウシの一生のうちに中枢神経組織中に異常プリオン蛋白が増幅することはないと予想される。
117	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(13):8665-8	ウシプリオン蛋白を発現するトランスジェニックマウス(雌)で脳内にBSEウシ由来の接種物を投与した後、妊娠させ母子感染が起こる(仔の脳に異常プリオン蓄積)ことを報告した。
118	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(24)	2005年7月のIrishNewsによるとアイルランドのダブリン病院においてvCJD治療を受けている患者が輸血を行っており2名が献血を受けていることについて、1名はvCJDと関係ない症状で死亡しており、1名は無症状であると報道。アイルランド保健省は報道後の再保障を試みている。

No.	感染症(PT)	出典	概要
119	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
120	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005;15(29)	英国保健省はvCJDのリスクが増加していることが確認された新たな集団について2005年7月20日に公式発表。この集団は後にvCJDを発症した患者に対して以前に輸血された血液のドナーである。現時点で3件のvCJD症例に対して約100ドナーが関係している。さらに2名の受血者について観察がされている。1名はvCJDと関係のない症状で死亡しており、もう1名は無症状であるが輸血による感染を否定できない。
121	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をin vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。
122	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
123	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance 2005;10(6)	2005年6月、ポルトガル保健監督局より、検査室結果で判明したポルトガルにおける初のvCJD可能性患者を報告。患者はCJD共同研究グループのvCJDの診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認されている。イギリスへの渡航歴はない。
124	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
125	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrP _c の分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrP _c 発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrP _c が認められた。
126	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオンの垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。
127	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(9):5259-71	完全なウシプリオン蛋白(BoPrP)を表現するトランスジェニックマウス(Tg)は伝播のバリアーなしにBSEプリオンを連続的に遺伝させる。Tgマウスはヒツジスクレーピープリオンにも伝播のバリアーを示さない。このことは、ウシがある種のヒツジスクレーピーのプリオンタンパクに高い感受性があることを示唆している。種間のプリオン伝播に観察される種間バリアーの大部分は、株間バリアーであると考えられる。Prpの配列の相違が、異なる種のプリオンの伝播を必ず防御するわけではない。
128	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(21):13794-6	慢性消耗病感染ミュール鹿の脳組織を接種したリスザルにCWDが感染した報告。
129	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(8) 257-61	PrP _{no} サイズと感染性及び変換活性を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝固物を持つ非線維性粒子が最も有効なイニシエーターであることが示唆された報告。

No.	感染症(PT)	出典	概要
130	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature Medicine 2005;11(9):982-5	異常プリオンを正常プリオンで増幅するPMCA法というvCJDの新スクリーニング法をテキサス大が開発し、脳内接種によるスクレイピーハムスターを用いた実験で血液中の異常プリオン検出に成功した。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。症状検出前の動物から採取した血液での検出、血漿や分画成分での検出について今後の課題。
131	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005;64(suppl1):A100	サウジアラビアで初のvCJD患者の報告。患者は牛肉を食べ、海外渡航歴として1995年フランス2週間、98年米国1年間UKに4日間滞在がある。遺伝子分析によりPRNPのCodon129はmethionineホモ体であった。
132	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Paul-Ehrlich-Institut 2005年1月12日	後にvCJDを発症したフランス女性ドナーの血漿が血友病A及び後天性第八因子欠乏症などの出血予防及び治療などに用いられる製剤の1バッチに使用された。当該バッチ由来の製品は1997年ドイツ市場に出回っていたが既に回収済みであった。
133	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050406 (The Washington Times2005年3月24日)	United Press International (UPI)社は1971年に死亡したフランス女性でv-CJDに合致する病理所見を示したとの情報を入手した。もしこの発見が確定されれば、この致死性の中枢神経系変性疾患は従来考えられていたよりも20年も早くヒトに感染していたことになる。フランス当局はこの患者の脳標本を再検査中である。
134	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Reuters News 2005年7月29日	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
135	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド輸血サービス(IBTS)とアイルランド当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。
136	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群 (Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。
137	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	TRENDS in Cell Biology 2005 Feb;15(2)	PrPcがPrPscに変化する可能性のある細胞部位についての研究。小胞体はプリオン病の遺伝子における変異型PrPへの転換において主要な役割があるが、原型質膜へのPrPcの輸送とそれに続く吸収がプリオン病の感染型におけるPrPcの転換に要求されていると考えられる。さらに、PrPcとPrPscが関与している膜領域もまた、変換のプロセスに重要であると考えられる。
138	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA Statement June 29,2005	米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。
139	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA News Release No.0232.05	米国農務省 (USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイツン獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
140	マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年11月24日から実施されていたCDCによるドミニカ共和国アルタグラシアとトゥアルテ州への渡航に関連するマラリア予防勧告の解除について。

No.	感染症(PT)	出典	概要
141	マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年12月26日の津波/地震に伴うマラリア予防勧告がインドネシアのアチュ州を除いて災害前の勧告基準に戻っていた。
142	マラリア	ProMed20051015-0070(Eurosurveillance 10月13日)	フランス人旅行者1名が2005年8月～9月ドミニカ共和国東部を旅行した後に熱帯性マラリアを発症した。マラリア薬の服用歴なし。過去12ヶ月以内に輸血、臓器移植歴もなし。
143	野兔病	mvgazette.com2005 年7月8日	2005年米国当局より、汚染された兔の吸入による野兔病感染と考えられる症例が報告された。2000年夏から流行した野兔病確定診断された30名のうち7名を除く全員が肺炎型であった。
144	リケッチア症	第57回日本衛生動物 学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
145	リケッチア症	第57回日本衛生動物 学会56S57B05	2004年8月に徳島県で日本紅斑熱患者の飼犬からリケッチア感染が確認された。
146	リンパ性脈絡 髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
147	リンパ性脈絡 髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器が移植された場合には重篤な症例になることが示唆された。
148	流行性耳下 腺炎	Infection Diseases Weekly Report Japan2005年第30週	流行性耳下腺炎が2005年第30週までの小児科定点からの累積報告数は103,692例であり昨年同時期の62,742例を大きく上回っている。また本年15週以降は常に過去5年間の同週の平均値を上回っている。本疾患が過去10年間に於いて4年周期で流行するのと同じであり、2005年が流行年予測されている。本疾患の流行に伴ってムンプスウイルスによる無菌性髄膜炎の報告も増加しつつあり、今後の本疾患の報告推移には十分な注意が必要である。
149	レンサ球菌感 染	BBC News 2005年7月27日	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
150	レンサ球菌感 染	ProMed20050726- 2169(The Standard)	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は25%四川省共産党書記官はこの菌はヒト-ヒト感染を起こさないと述べている。
151	レンサ球菌感 染	ProMed20050826- 0020(ALL Headline News8月23日Agia News8月24日)	香港政府は今回のブタレンサ球菌による被害が最も深刻な中国四川省からの豚肉輸入再開を宣言した。7月末に禁止してからの再開。衛生当局は四川省での致死的な感染流行は制圧されたと発言している。また、香港での感染した患者から分離した菌の遺伝子解析の結果それぞれ異なる株であると発表している。
152	ロタウイルス	第52回日本ウイルス学 会学術集会 (2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。
153	感染	International J of hematology 2004;80:301-5	米国において、献血の各種の安全対策に関する総説論文。献血の安全対策を実施した結果、HIVとHCV感染は減少しているが、新興感染症であるシャーガス病、バベシア症、マラリア、WNVとvCJDに注意しなくてはならない。

No.	感染症(PT)	出典	概要
154	感染	CDC/MMWR 2005;54(11):269-72	2005年1月26日CDCはミズーリ州の癌治療クリニックの患者におけるPseudomonas Fluorescens血症4例の報告を受けた。2月15日現在4州でヘパリン生食洗浄による36例のシュドモナス感染を確認している。
155	感染	China View 2005年8月23日	現地の新聞Labor紙より、ベトナム南部のDong Nai省で豚約200頭とウシ5頭が原因不明の疾患により死亡と報道された。省の獣医学局は原因を調査中。
156	感染	Microbiol 2005;43:2009-11	免疫抑制された小児の肺膿瘍から腐敗担子菌Irpex lacteusが分離された。ヒトへの伝染は知られていない。
157	感染	newindpress 2005年 5月25日	2005年5月、インドTiruchy市近郊の孤児院で66名の小児が感染した新しいタイプの発熱性疾患について。当初の検査結果ではマリアが疑われたが否定され、バヘシア症などの人畜共通感染症が疑われ検査が実施中である。
158	感染	ProMed20050625-006(Taiwan News)	保健省疾病予防センターは2000年以降初のコレラ国内感染患者を確定。
159	感染	ProMed20050625-0090(Mi punto Noticias 6月24日)	2005年6月23日、グアテマラ当局は首都西部とメキシコ国境の原住民集団でウイルス感染によりこれまでに小児5名が死亡と報告。このウイルスは脳炎やウイルス性髄膜炎を来たすと考えられるが現時点ではウイルスの同定や感染経路は不明。感染後48時間以内に死亡。
160	感染	ProMed20050825-0050	ベトナム南部のDong Nai省で豚約200頭とウシ5頭が原因不明の疾患により死亡した。
161	感染	ProMed20051003-2289(The Grobe and Mail)	2005年9月カナダの高齢者施設で4名が典型的な呼吸器疾患によって死亡した。SARSでもなく鳥インフルエンザでもない。病因についてオンタリオ州公衆衛生研究所で調査中。
162	感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ, 下痢症, 赤痢 更新2005年 コレラ-中国(福建省)(情報源:XinHuaNet.com)中国東部の福建省で2005年8月からコレラ患者が172名発見された。これはここ数年で最も多い。福州で2005年8月12日に最初のコレラ患者やG発見されてからこれまでに一人の死亡も出ていない。現在までに83名の患者が快復し、病院から退院した。他の患者の容態は安定している。多くの患者が道端の小さな店でシーフードを食べたと言っている。保健衛生易学予防局による初期の調査では、流行はシーフード特に貝によって引き起こされた。
163	感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ更新2005年 香港←インドネシア(情報源:News.gov.hk), WHO報告(情報源:WHO Epidemiological Record, 19 Aug 2005 2005)コレラの輸入患者が確認された。香港で4例目の輸入患者を確認した。この患者はインドネシアで発病し、香港に8月5日に到着した。この患者の状態は安定しており、Princess Margaret病院に入院した。4例のうち、1例は国内感染で、2例は輸入例で、1例は分類保留である。(2005年8月20日掲載)
164	感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ-中国(浙江省)(情報源:XinHuaNet.com, 10月9日)2005年8月25日に最初の患者が発見されて以来、2005年10月8日現在、158人のコレラ患者が浙江省東部の嘉興(かこう)(チアシン)市から報告された。死亡患者は報告されていない。72人が現在も入院治療している。同市では水との関連があり、腸管感染症流行がみられやすい地域である。保健当局は、感染源は汚染された水と食物であり、市民は個人的衛生手段に注意を払う必要があると述べている。
165	感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	原因不明の疾患, スイミングプルー-中国(内モンゴル):情報提供依頼 2005年7月末以来、内モンゴルの省都の Hohhot の公衆プールを使用した400人以上の小児が発病した。Hohhotのプールは閉鎖されたが、73名の患者は現在も入院している。一部の患者は皮膚の発疹と発熱を呈している。中国衛生部は、国内全土の衛生署に対し、スイミングプールの監視の強化を通知した。 < http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/PEK204943.htm > (2005年8月20日掲載)

No.	感染症(PT)	出典	概要
166	感染	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	原因不明の大量死—中国(四川省):情報提供の依頼 ・情報源:新華社通信Xinhua Net, 7月23日。 中国南西部四川省で過去4週間以内に現地住民20名が原因不明の疾患に感染し,うち9名が死亡したと州保健局が2005年7月23日確認した。2005年6月24日から7月21日までの間に資陽Ziyang市の3つの病院では同様の症状を呈した患者20名が入院した。7月21日までに患者9名が死亡したが,1名は快復し退院した。さらに10名の患者が治療を受けており,うち6名は重症であると,省保健局は明らかにした。
167	感染	ProMED情報(厚生労働省検疫所 海外感染症情報/詳しい情報)	コレラ,下痢症,赤痢 2005年更新 中国(情報源:XinHuaNet.com)中国衛生部の8月10日の発表によると,2005年7月の中国全土での感染症患者発生は27疾患390,418人であった。 香港(情報源:News.gov.hk)(WHOコレラ患者報告 8/5-11(情報源:WHO Epidemiological Record, 12 Aug 2005 2005) Centr for Heal
168	感染	Reuters Foudation AlertNet Newsdesk 2005年6月20日	2005年6月、トルコのある病院の新生児集中治療室(NICU)収容患者の約半数にあたる未熟児7名が原因不明の細菌感染のために死亡、9名が重篤。
169	感染	Thanh Nien News 2005年4月1日	2005年4月、ベトナム当局は原因不明の疾患(足と腕の麻痺)のため2名死亡し120名が発病した原因を調査している。現在までに中毒が疑われている。
170	感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリヌス症と診断されたウシの乳からボツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。
171	感染	新華社通信 2005年6月17日	2005年6月、ネパール当局はネパール西部の異なる2地区で下痢、呼吸器感染を原因不明の疾患により少なくとも33名が死亡し、周辺地区にも感染が拡大していると報告。
172	炭疽	ProMed20050605-0060(Gazeta Ru information 5月30日)	2005年5月、ロシアのRostov地域ロシア連邦緊急事態省によるとRostov地区で豚炭疽症例が発生し、92名が予防接種を受けた。
173	炭疽	ProMed20050709-0120 ProMed20050710-0010 ProMed20050724-0010 ProMed20050730-	米国における炭疽病のアウトブレイクに関する情報。(テキサス州、ノースダコタ州、サウスダコタ州、ミネソタ州、モンタナ州)
174	炭疽	ProMed20050729-0070(BrandonSun online) ProMed20050812-0110((Manitoba Agriculture)	カナダ マニトバ州におけるウシ炭疽病の報告。2001年から03年に発生した地域とは別の地域での発生。
175	炭疽	ProMed20050902-0050(New Agency)	Kamensk地区で今年(2005年)3例目のブタ炭疽菌が獣医研究所の解析により同定された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
176	炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, シカ科Cervidae, 家畜—米国(テキサス州) 情報源:テキサス州動物衛生委員会公式ニュース広報, 7月6日。 テキサス州Sutton郡の飼育場2カ所でウマ, シカ, ウシの炭疽感染患畜が検査室診断確定され, 家畜やシカの喪失が報告された同郡内その他の場所数カ所の検査室診断結果は検査中である。 (2005年7月9日掲載)
177	炭疽	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症情報／詳 しい情報)	炭疽, ヒト患者—中国(遼寧省) 情報源: Reuters 中国北東部で最近数週間発生している炭疽事例で, 1名が死亡し, 12名が感染したと国営メディアが8月7日に報じた。炭疽は2005年7月29日に遼寧省瀋陽市の郊外で発生したと新華社通信が ウェブサイト上で報じた。8月5日時点でDamintun町では, 新規患者は過去5日間報告されておら ず, 現地住民の生活も正常に戻った。患者11名は病院で治療を受け, 快復していると伝えられ た。

